

これからの大垣市の進路に 皆さんの声を反映させましょう！ 第5次総合計画 後期基本計画策定始まる

今年、平成20年度からスタートした第5次総合計画の前期計画（5年間）が終了し、平成25年度から5年間の後期計画を策定する年です。後期計画を策定するうえで、過去5年間の総合計画を総括することが大切です。今回は、前期計画の5年間の「財政見直し」に対し実際はどうであったのか、資料を作ってみました。また、後期計画策定のスケジュールが出されていますので、お知らせします。

大垣市議会議員 笹田 トヨ子

第5次総合計画とは

上石津と墨俣の1市2町の合併後、平成20年度から10年間の第5次総合計画が策定されました。「水と緑の文化・産業・情報・交流都市」と将来都市像をうたい、「前期基本計画」は「重点プロジェクト」と「分野別計画」で構成されています。

重点プロジェクトの内容は

- ①都市再生・活性化プロジェクト
- ②安心・安全のまちプロジェクト
- ③環境創造プロジェクト
- ④子育て日本一のまちプロジェクト
- ⑤かがやきライフ推進プロジェクトです。

この5年間の大垣市の財政は

大垣市の財政運営からこの5年間はどうかであったのか、前期計画の5年間の「財政見直し」に対して、決算はどうであったのか分かる範囲で資料を作ってみました。

（裏面参照）

特徴は、市税収入が予想を下回り、その分国からの地方交付税が増えています。また市の借金・臨時財政対策債（臨財債）も増えています。

歳出の方では、人件費や公債費（借金の返済）が下がっていますが扶助費は増えています。

職員数が計画以上に削減されていることや賃金カット等で人件費は下がってきています。扶助費は子ども手当などで予想より増えたと考えられます。

大垣のまちづくりを ともに考えましょう

第5次総では、「人口減少」や「少子高齢社会」を予測し、地域の活性化など課題として挙げ、「子育て日本一のまちづくり」を重点プロジェクトに掲げました。果たして期待通りのまちづくりができたのでしょうか。この5年間には、リーマンショックを契機に派遣切りが横行、益々貧困化が進み、市民の所得は減りました。また

3・11の大震災と原発事故など予想以上の社会変化が起きています。国政では国民の期待を背負って民主党政権が誕生したけれど、次々と公約破りで、政治不信の状況になってきています。こうした状況の中で、大垣のまちづくりをどうするのか、これからの5年間、後期計画を策定するにあたり、みなさんの声を反映させましょう。

後期基本計画策定スケジュール

昨年12月議会に、後期基本計画の策定スケジュールなどが出されました。

策定の視点としては、「将来を見通した計画」として、社会経済環境を把握し今後の変化を予測しながら本市の現状や課題を整理し多様化する市民ニーズに対応するというものです。その他「経営の観点を取り入れた計画」「成果を重視した分かりやすい計画」、「市民の意見を反映した計画」を打ち出しています。

市民参画で、「市民意向調査」「各種団体との懇談会」「若い世代との夢未来会議」、又計画の素案に対する「パブリックコメント」があります。

以下が、市民参画のスケジュールです。

市民意向調査・・・ 2月～3月

各種団体との懇談会・・・ 6月～7月

夢未来会議（中学生・大学生との懇談）・・・ 7月～8月

パブリックコメント・・・ 10月

策定体制は、経営戦略会議（四役・部局所長）等庁内で素案を作り、総合計画審議会を設置（9月～11月）し、3つの部会で調査審議し、答申することになっています。

